

120109その他の教育研究業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	8 ～ 10	被災者が、ホームルームの打ち合わせを行うために、事業場敷地内にある体育教員室から会議室へ移動していたところ、前日の雪の影響により凍結した通路で足を滑らせて転倒し、後頭部を地面に打ち付け、意識はあったが病院で検査を行ったところ、硬膜下血腫と診断され、入院先で治療を受けるも数日後に容体が急変し死亡したものの。	417	2	100 ～ 299
2022	3	16 ～ 18	養殖ほやに取り付けていた計測機器を取り外すため、3名（漁業協同組合の労働者1名、事業場Aの労働者1名、個人事業主（船長）1名）が乗船した漁船が漁港を出港後、何らかの原因により漁船が転覆し、被災者と労働者は海上で発見され、その後、全員の死亡が確認されたもの。なお、救命胴衣は着用していた。	239	18	10～ 29
2022	4	16 ～ 18	敷地内車庫にて、フォークリフトのエンジンオイル交換作業のためジャッキアップを行っていた被災者の同僚が、被災者に、ジャッキの高さを確認するよう求め、被災者がフォークリフトの下に潜り込んだところ、ジャッキが外れてフォークリフトが落下し、被災者の頭部がフォークリフトと地面の間に挟まれ、死亡したものの。	361	4	100 ～ 299
2022	5	18 ～ 20	地質調査のため川周辺の沢の水等を採取していたときに、被災者が同川を渡るため堰堤の上を歩いて水通し（幅約1.4m）を飛び越えたところ、着地時に足を滑らせて川に転落し、渦に引き込まれて被災した。	713	10	100 ～ 299
2022	8	0 ～	アフリカ中南東部のマラウイ共和国南部の湖で7人乗りモーター付ボートに乗り、現地漁業局の職員4人と日本からの渡航者1人で漁獲活動調査に	713	10	100 ～

		2	出たところ、沖合でボート正面から高波を受けて転覆し溺死した。			299
2022	12	8 ～ 10	被災者は始業開始後、当日予定されていた白血病検査（採血検査）をするため、牡牛舎で飼育している雄牛3頭を係留場へ誘導し、身体を洗う準備作業をしていた。2頭を誘導し、係留を終えたため、3頭目を誘導していたところ、何らかの原因により死亡した。	719	6	100 ～ 299
2021	5	14 ～ 16	キャンパス中庭において、三脚脚立を使用して剪定作業を行っていたところ、脚立より落下したもの。	371	1	50～ 99
2021	6	0 ～ 2	新型コロナウイルスに感染して緊急入院するも、新型コロナウイルス肺炎により死亡したもの。勤務地はパーテーションで区切られた教室内で通気性はよくなく、教育事業という特性上、生徒、講師、保護者との面談等が頻繁にあり、近距離での会話が避けられないなど、感染リスクが高い業務であった。	911	90	1～9
2021	9	10 ～ 12	乗用草刈機を運転して事業場構内の草刈りを行っていた被災者が、法面（高さ約2.5m、傾斜約33度）の下で、横転した乗用草刈機の下敷きになっているところを同僚に発見されたもの。法面は途中まで草が刈られていた。	169	1	50～ 99
2021	10	10 ～ 12	派遣労働者である被災者が、派遣先の就労場所である小学校の校庭南側のフェンス際にある木の剪定作業を行っていた際に約4m墜落し、死亡したと見られるもの。一人作業のため目撃者はいないが、木に梯子状に立てかけられた脚立が括り付けられており、被災者は鼻付近から出血していた。また、被災者は保護帽、墜落制止器具は身に付けていなかった。	712	1	30～ 49
2021	11	20 ～ 22	トレーニングジム内において、ベンチプレスを使用してトレーニングを行っていたところ、重量90キログラムのプレート付きバーベルが被災者の喉から胸部付近に落下し即死したもの。	379	4	1～9
2021	12	10 ～ 12	派遣労働者が勤務時間中に就業場所から軽自動車を運転して関係機関へ書類を提出した後、就業場所に戻ろうとした道中で片側1車線の緩い右カーブの下り道で道路左側の電柱に衝突し、死亡したもの。	231	17	10～ 29

2020	1	10 ～ 12	被災者ほか1名で脚立及び剪定道具を使用して樹木の剪定作業を行っていたところ、被災者が地上から高さ3.4mの位置から墜落。病院に搬送されるも、同日死亡した。	371	1	～ 499	300
2020	3	12 ～ 14	新型コロナウイルス感染症により死亡したもの。	911	90	～ 9999	1000
2020	4	8 ～ 10	生物調査のため、被災者は取水堰の中央部に位置する堰に手漕ぎボートで向かっていたところ、ボートが堰の吐水箇所です転覆した。川に落ちた被災者は流れに逆らいながら堰柱に向かっていたところ、吐水箇所です留まっていたボートが被災者に向かって流れ、被災者に激突した。被災者は下流に向かっ流され、同じく調査をしていた労働者により救助された。救急搬送後、病院で死亡が確認された。	239	18	1～9	
2020	6	10 ～ 12	遺跡発掘調査現場において、被災者は発掘作業から離れベルトコンベアのフレームの上に別のベルトコンベアを載せて繋げていた箇所付近にて、当該ベルトコンベアからこぼれ落ちた土をベルトコンベアに載せていたところ、ベルトコンベアが脱落して被災者の背にのしかかり頸椎骨折を負ったもの。後日入院先医療機関において頸椎骨折を主原因として発症した小脳梗塞により死亡した。	224	4	50～ 99	
2019	4	14 ～ 16	学校のグラウンドで開催された交通安全教室において、歩行者が渋滞している道路（横断歩道ではない箇所）を横断した際にトラックにひかれるという場面（題目「トラックの死角によって起きる事故」）を再現中、トラックのバンパーにしがみついていたスタントマン（被災者）がバンパーから手を離したため、地面に落ち、トラック右後輪に巻き込まれたもの。災害発生7時間後に、被災者は搬送先の病院で死亡した。	221	7	1～9	
2019	8	10 ～ 12	動物飼育舎内の檻の外側の管理通路上で被災者が意識不明で倒れているのが発見された。	719	6	～ 299	100

2018	3	6 ～ 7	高等学校の駐車場付近で縊死の方法により自殺。	921	90	50～ 99
2018	6	10 ～ 11	体育館南壁面の一部を覆っていた枯れたツタをはがすために、壁に全長4.15mのはしごを立て掛け、ツタを切る作業をしていたところ、はしごから約3m下の地上に墜落したものの。	371	1	50～ 99
2018	7	14 ～ 15	被災者は、生徒が海で溺れているのを発見し、助けようと海に入ったが、溺れてしまった。被災者は、意識不明の重体で助け出されたが、翌日に搬送先の病院で死亡した。	713	10	100～ 299
2018	7	21 ～ 22	「バス乗降調査」の業務として業務終了後、会社指定の私用車で帰宅する途中に道路脇の擁壁に乗り上げて車輻が横転し、自損事故を起こしたものの。1名死亡5名負傷の計6名が被災した。	231	17	10～ 29
2018	8	10 ～ 11	野外活動を目的とした子供向けツアーの引率中、水辺の岸で子供たちを撮影しようと、一人で待機していたところ、法面から落ちてきた3mほどの丸太、もしくは石が頭部に直撃した。頭頸部多傷により死亡したものの。	712	4	10～ 29
2018	10	16 ～ 17	被災者が1人で虎の屋外展示場の清掃のため、屋外展示場に入場して虎に頭部等を咬まれ死亡した。通常は、虎を屋外展示場から屋内飼育場に移動させ、屋外と屋内を仕切る扉を閉めたことを確認してから作業員は屋外展示場に入場する。しかし被災者は、虎が屋外展示場に居るにもかかわらず屋外展示場に入場したものである。	719	90	50～ 99
2018	12	8 ～ 9	被災者は、立体駐車場屋上（5F）の社用車置き場から墜落した。	418	1	1000～ 9999
2017	2	8 ～ 9	専門学校駐車場で講師がビルの屋上から墜落し倒れているのが発見された。	418	1	10～ 29
		18	被災者は、自動車設計部品設計開発の管理業務を担当していた。休日に自			1000

2017	3	～ 19	宅でパソコン作業中に突然、頭痛を訴え意識消失したため、病院へ救急搬送されたが、「脳内出血」により死亡した。発症前2か月の時間外労働時間の平均は80時間を超えていた。	921	90	～ 9999
2017	3	22 ～ 23	スキー用ワックスの研究開発に必要なデータ取りのため出張していた被災者が、路上で心肺停止の状態で見つされた。原因は不明であるが、頭部、顔面に打撲痕があり、頸椎損傷により歩行困難となり、寒冷状態及び循環器不全等により死亡したと推定される。	999	99	～ 9999
2017	5	10 ～ 11	非常勤講師である被災者が午前10時50分に東部の教室にて講義を終え、同建屋2階の講師控室に向かう途中、4階から3階へ下る階段上から3階フロアへ転落または墜落しその衝撃で頭部を負傷、その10日後に脳挫傷により死亡した。	413	1	30～ 49
2017	6	14 ～ 15	被災者は、勤務先が契約しているガソリンスタンドにおいて、業務で使用する草刈機の混合油を買い、同所から自転車で事業場へ戻る途中、国道西側の歩道を走行していたところ、信号及び横断歩道の無いT字路にて、国道に出ようとした乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2017	8	8 ～ 9	被災者は、当該事業場校舎とラクビーグラウンドの間にある屋外通路の手すりを越えて行う除草作業の事前作業として、レイカー（熊手）を用いて除草区域における蜂の巣の有無の確認を行っていた際に、誤って開口部より約5メートル下の地下駐車場に墜落した。	418	1	300 ～
2016	2	17 ～ 18	中学校に講習会の講師として派遣された帰りに、自動車を走行中、路肩に停車していた作業トラックに追突した。	231	17	1000 ～ 9999
2016	2	12 ～ 13	登山道の標高1750～1800m付近の調査地点で同僚と2名で積雪調査を実施後、登山道を下山中、標高1750m付近（積雪数cm）においてバランスを崩し、斜面の露岩地へ転落した。転落の約4時間後に消防防災ヘリにより救助されたが、搬送先の病院にて死亡が確認された。	711	1	1～9
		17	被災者がラベルプリンターを物品棚に戻す際、踏み台代わりにキャスター付のイスを使用したところ、イスが動いたため、バランスを崩し、40c			

2016	4	～	18	m下の床に墜落し、後頭部を強打し、意識を失った。一度は意識を取り戻したが、病院へ搬送されている途中で再び意識を失い、容態が回復しないまま、死亡した。	379	1	50～ 99
2016	6	～	18	被災者は、部活動の指導中、急性大動脈瘤解離により死亡した。なお、被災者は、発症前1か月から6か月までのいずれの期間においても、著しい疲労をもたらす過重な業務に就いていた。	921	90	50～ 99
2016	6	～	20	19時30分頃、宿直代行員の被災者は校舎の巡回中、防火扉（幅2.3m×高さ3m）を閉める際に、風にあおられた防火扉と内壁の戸枠に右後頭部を挟まれ、強打された。その後、ふらつきながら、宿直室に戻ったが、翌日8時30分頃に交替の日直代行員から、布団の中で嘔吐し、倒れているところを発見され、救急搬送されたが、死亡が確認された。	419	7	10～ 29
2016	8	～	14	13時30分頃、被災者が空調の室外機の点検が終了し、事務所に戻るため、室外機が設置されている普通教室棟の屋上から管理室棟の屋上へ移動していたところ、屋上の端部を移動していたため、バランスを崩し、約13m下の地上へ墜落した。	418	1	100 ～ 299
2016	8	～	14	園内サファリゾーンにある日本ゾーンにおいて、被災者が専用の軽自動車内で動物の監視をしていたところ、同ゾーン内に放たれていたツキノワグマ（雄、体長約1.7m、体重約110キロ）に襲われた。被災者は、左脇腹や胸をかまれ、肺損傷出血性ショックで死亡した。	719	90	50～ 99
2015	11	～	11	10 国外の交差点において、横断歩道を歩いていたところ、交差点を右折してきた観光バスに巻き込まれたもの。	231	17	1000 ～ 9999
2015	5	～	23	出張先での業務終了後、社有車で帰社途中、東名高速道路の路肩に社有車を停車させて車外に出て、社有車に再び乗り込もうとした時、走行車線を走行してきたトラックに轢かれたもの。高速道路上で車外に出た理由は不明であるが、社有車の運転席パネル部分には、タイヤの空気圧異常を示す表示が出されていた。	221	17	1000 ～ 9999

2015	8	8 9	出張後、同僚労働者が乗用車（軽自動車）を運転し、居住地方面へ帰る途中、中高速道路上り線の追い越し車線を走行中、前方の車両より落下物があり、それを避けようと走行車線方向へ左に急ハンドルを切ったところ、当該乗用車が横転し、助手席に同乗していた被災者が脳挫傷により死亡したものの。	231	17	1～9
2015	1	10 11	R C造2階建校舎の雪下ろしの作業のため、1人で約10mの高さの校舎屋上にて雪庇を降ろそうと端部に近づいたところ、屋上のパラペット部分に積もった雪庇とともに10m下のアスファルトへ墜落した。雪庇は約70cmパラペットの端部からせり出していた。	418	1	1～9
2015	9	15 16	小学校の給食調理室の厨房内において、本件事業場（以下「事業場」という。）労働者3名が給食調理後の後片付け等の作業中、また、害虫駆除事業場（以下「業者」という。）の労働者が害虫駆除作業中、突然爆発が発生し、事業場の労働者3名のうち1名が死亡し、2名が負傷、業者の労働者及び当該小学校の児童4名も負傷した。	513	14	1～9
2014	2	8 9	幼稚園行事のため訪れる保護者の車を幼稚園専用駐車場で誘導中、誘導していた車が猛スピードでバックしたためその車に轢かれ、その車とともに隣地の田んぼに転落、車の下敷きになった。	231	7	30～ 49
2014	3	16 17	用務先から事務所にバイクを運転して帰る途中、道路の交差点を右折したところ転倒し、直進してきたトレーラーに轢かれた。	231	17	300 ～ 499
2014	3	12 13	ビニールハウス（上部が三角形の形状）の骨組みの正面部分にビニールシートを貼り付ける作業中、三脚脚立（3m脚立）を使用し行なっていた際、バランスを崩し、墜落した。	371	1	10～ 29
2014	8	18 19	車で移動中、反対車線を走行していたトラックが、センターラインを越えて飛び出し、衝突した。後部座席に座っていた被災者が死亡した。	221	17	1000 ～ 9999
2014	12	14	花を運搬中、運転する小型トラックが中央線を越え、道路反対側の車庫に	221	17	100 ～

		15	衝突。田に転落した。			299
2013	7	11 ～ 12	サマーキャンプ同行のため、幼稚園のバスの後方を乗用車に乗って運転中、対向車線にはみ出し、対向車両のトレーラに衝突した。	231	17	10～ 29
2013	1	22 ～ 23	警備員が構内の見回り中、T館西側階段6階の踊り場で倒れている被災者を発見した。死因は、急性硬膜下血腫他外傷性のもの。尚、現認者がいないが、なんらかの理由で階段から転落したと推測される。	413	1	100 ～ 299
2013	9	10 ～ 11	施設駐車場に生えている立木の枝が、駐車場に入場して来る車両の支障となるため、枝打ち作業を行っていた。被災者は、はしごを施設の案内看板（高さ4m）に立てかけ、はしご上において作業を行っていたところ、案内看板がはしごの支点となり、シーソーのように動きはしごは案内看板を飛び越え逆さまの状態となり、被災者ははしごから落下し顔面を打ち付けた。	371	1	10～ 29
2013	1	13 ～ 14	被災者を含む労働者3名が、事業場の溶接実習室前の敷地に駐車したバスの屋根に滑り止めストッパー付の二連式移動はしご（以下「移動はしご」という。）を立て掛けて、補修した換気扇カバーを取り付ける作業を行っていたところ、移動はしごを降りる際、上端から4つ目の「踏みさん」の箇所、被災者が足を滑らせ、2.6メートル下の敷地内アスファルト床面に墜落した。	371	1	100 ～ 299
2013	5	21 ～ 22	被災者は、プール営業終了後の清掃及び更衣室内の忘れ物を確認した後、救助訓練として25mプールを往復1分以内で泳ぐ訓練を5本実施しクーリングダウン後に、他の従業員とプール水面上にシート掛けを行った。終礼を行うため、ロビーに集合した際に被災者がいない事に同僚が気付き、プール場へ探しに行ったところ、プールの中でうつ伏せで水没しているの被災者が発見された。	713	10	50～ 99
2013	10	17 ～	帰宅するため、勤務先の階段21段を降りる際に転落し、搬送先の病院で出血性ショックにより死亡した。	413	1	10～ 29

		18				
2013	10	11 ～ 12	被災者は、台風の後で冠水していた図書館の屋上から水を抜きに上った後、同様に図書館玄関の庇にも水が溜まっていたに気づき、庇から約1.5 m離れた軒天に2階休憩室の窓から降りた際、足を滑らせ転倒し、高さ3.6 mの軒から地上へ転落した。	415	1	300 ～ 499
2013	11	9 ～ 10	被災者は、脚立に上りのこぎりを使用して、桜の木の枝を途中まで切ったところ、切ろうとした枝が折れた反動で上っていた脚立に激突し、脚立が倒れたため、約2メートルの高さから地面に墜落した。	371	1	1～9
2012	9	0 ～ 1	勤務終了後、台風による暴風雨のため、上司の許可を得て食堂にある休憩室に泊まったが、台風による停電で業務用冷蔵庫に電気を供給する内燃式の発電機2台を屋内で稼働させていたため、就寝中にその発電機の排気ガスによる一酸化炭素中毒で死亡した。	111	12	10～ 29
2012	8	13 ～ 14	学習塾の野外活動を引率していた被災者が、川遊びをしていた小学生2名が溺れたのに気がつき、救助しようとして、深さ約2mの川の深みにはまり、溺死した。	713	10	30～ 49
2012	4	13 ～ 14	被災者は生徒とインストラクターの2人乗りパラグライダーの離陸補助をしていたところ、被災者の片腕がパラグライダーのハーネスに引っ掛かった状態で離陸し、被災者が数十m上空から山中へ墜落した。	391	1	1～9
2012	9	10 ～ 11	被災者は学校のグラウンドに生えている桜の木の枝を剪定する作業を行っていた際、三脚脚立に上り、チェーンソーを用いて枝を剪定したところバランスを崩し、高さ約3mの位置から地上に墜落した。	371	1	10～ 29
2012	1	13 ～ 14	ダイビングスクールの講師である被災者は、講習先にてプール講習の休憩中に突然頭痛が起き、救急搬送先の病院で死亡した。なお、当事業場はダイビング講習の他、スキューバーダイビング資格取得ツアーの企画・実施も行っており、被災者は店長として、前月に沖縄等へのツアーコンダクターとして帯同し、月間の時間外労働時間は約160時間に及んでいる。	921	90	1～9
		11	品物を届けた帰りに、階段で足が引っ掛かり4段ほど落下した。その際、			10～

2012	1	12	足を折った状態で角にぶつけ、右膝下を負傷した。その後、その傷が原因で肺動脈血栓症を発症し死亡した。	413	1	29
2012	1	8 ～ 9	仕事量増大に起因するストレスでうつ病を発症し、発作的にマンションから飛び降り、自殺した。	921	90	300 ～
2011	7	12 ～ 13	事業場の昼休み（12時～13時）に入った12時5分頃、事業場敷地内の信号のない交差点を250CCのバイクで走行中、左方向から走行してきた同僚の運転する普通乗用車と出会い頭に衝突し、死亡したもの。被災者は、日頃、事業場敷地内にある食堂への移動にバイクを利用しているため、被災当日も食堂へ移動中だったものと推定される。また、普通乗用車の同僚は、自宅で昼食をとるために移動中であったもの。	231	6	50～ 99
2011	10	9 ～ 10	農業試験場内のヤシの害虫駆除作業中に、薬を散布する農業機械（スピードプレーヤ、車両重量：2235kg）を移動させていたところ、下り勾配の作業路において法面に乗り上げ横転し、当該機械を運転していた被災者が、運転席より投げ出されたもの。	229	2	10～ 29
2011	9	16 ～ 17	大学構内において、施設の巡回業務中に行方不明となっていた被災者が、構内に敷設されている角型集水柵（開口部50cm×50cm×深さ140cm）内に頭から落ちた状態で、溺死しているところを発見されたもの。	713	10	100 ～ 299
2011	3	6 ～ 7	長時間労働による、著しい疲労の蓄積により、自宅で就寝中、心肺停止した。平成23年8月23日業務上決定	921	90	30～ 49
2011	9	6 ～ 7	9月6日朝7時頃、宿直勤務中であつた被災者が、宿直室と職員駐輪場の隙間で頭から血を流してうつぶせで倒れているのを学校長が発見、意識不明の状態を病院に運ばれたが、翌日朝に外傷性脳障害で死亡した。	999	99	1～9
		13	植樹用の苗木を被災者と同僚の2名で山の中を探していた際、「わー」という声と滑落音を聞いた同僚が、被災者の様子を確認しに近づいたところ、湖面で溺れている被災者を見つけた。同僚が被災者を救助したところ			

2011	2	～ 14	息をしていなかったため、心マッサージを行ったが、蘇生しなかったことから、助けを呼びに無線機のある車まで山道を戻り、事務所へ救助を求めた。被災者はヘリで県立総合病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	711	10	1～9
2011	3	～ 14 15	出張先のサイクルスポーツセンター内のコースにてオートバイのテスト走行を行っている時、左カーブを曲がる時後輪がスリップし転倒して左肩鎖骨を骨折した。病院にて治療後帰宅し、3月7日に出勤して災害の報告後、3月8日に久喜市の蓮江病院に入院し、3月9日骨折の手術中に死亡した。	231	2	300 ～
2011	7	～ 9 10	被災者2名は学生2名と共に7月28日午前、訓練飛行のため、小型プロペラ機で空港を離陸したが同日午後1時55分ごろ、斜面に墜落しているのが発見されたもの。機内などから3名（被災者2名、学生1名）を収容したが、間もなく死亡が確認された。なお、もう1名の学生は同町内の林道で負傷した状態で保護されたもの。	239	18	10～ 29
2011	7	～ 9 10	被災者2名は学生2名と共に7月28日午前、訓練飛行のため、小型プロペラ機で空港を離陸したが同日午後1時55分ごろ、斜面に墜落しているのが発見されたもの。機内などから3名（被災者2名、学生1名）を収容したが、間もなく死亡が確認された。なお、もう1名の学生は同町内の林道で負傷した状態で保護されたもの。	239	18	10～ 29
2010	12	～ 13 14	作業船上において、空港滑走路の海中部分を水中カメラで撮影中、水中カメラを船体左舷の海中に固定するために甲板上に艀装された鉄骨架台と、滑走路の支柱部分とが接触した。このときの衝撃で、鉄骨架台が緊結不足により甲板上から外れて水没し、その際に甲板上の鉄骨架台付近で、通常のカメラによる写真撮影をしていた被災者が、当該鉄骨架台と船べりに胴体をはさまれ死亡した。	419	7	100 ～ 299
2010	9	～ 7 8	グラウンド内において運動会の準備のため、高さ約2mの折りたたみ式の脚立を使用し万国旗のたるみを直す作業を行っていたところ、不安定な姿勢での作業によりバランスを崩し、地面に墜落した。	371	1	10～ 29

2010	7	10 ～ 11	パイロット及びカメラマンの被災者2名は、航空写真撮影のため小型飛行機に乗り、目的地に向けて飛行中、レーダーから機影が消えて行方不明となった。2日後に山中に墜落しているのを発見され、2名は収容されたが病院で死亡が確認された。事故当時は濃霧注意報が発令されており、視界不良が一因である。	239	18	～ 299
2010	4	13 ～ 14	被災者は、脚立を使用して中庭の庭木の剪定作業中、高さ3m付近から墜落した。1週間後に容態が急変し死亡した。	371	1	1～9
2010	1	13 ～ 14	学会出張のため、ホテルに宿泊したが、翌日の午後にホテル客室内のベッドの上で死亡しているところを発見された。過重労働とみられる。	921	90	～ 9999
2009	3	8 ～ 9	ガラス製の装置に入ったアクリル酸クロライド約20リットルを、電気ヒーターによるオイルバスで約70℃くらいまで加熱して常圧蒸留を開始させた後、一旦、蒸留ラインをクローズさせて、真空ポンプを作動し減圧蒸留を行う過程において、クローズによる密閉状態が長く続いたため、容器内部の圧力が上昇し、容器のガラス栓（バルブ）が飛び、内容物のアクリル酸クロライド約500ミリリットルが飛散し、これを吸入した。	514	12	1～9
2009	10	10 ～ 11	学校のグラウンドにおいて、周囲のフェンスを越えてグラウンド側に出ている木の枝切りする作業中、切断した枝がフェンス上端に引っかかったため、フェンスの脇に脚立を設置し、被災者が脚立に乗って当該枝を落とすために切断していたところ、切断された枝が脚立に当たったため脚立が傾いて倒れた際に脚立からグラウンドの地面に墜落した。	371	1	50～ 99
2009	9	9 ～ 10	小学校の用務員である被災者が、校庭内で脚立（最上段高さ2.05m）に乗って高さ2.3m程の桜の木の枝の枝切り作業中、使用していた携帯用丸のこ盤の歯が被災者に接触し、死亡した。	131	8	30～ 49
2009	2	14 ～ 15	被災者は勤務を終えて職員室を出た直後、職員室前のホールで出口に向け全2段の階段の最上段の位置まで歩いたところで、何らかの理由であおむけの状態で倒れ、身体をホール床に打ちつけた。	418	2	10～ 29

2008	12	14 ～ 15	立木の枝払い作業中に高さ5.85mの枝から足を滑らせてグラウンド外側のアスファルト歩道に墜落した。なお、保護帽及び安全帯は装着していなかった。	712	1	10～ 29
2008	6	7 ～ 8	小学校の通学路の交通安全員である被災者が、学校付近で校外学習に向う観光バスの誘導を手伝うため車道に出たところ、バスの横を通過しようとした大型トラックにひかれ死亡した。	221	17	30～ 49
2008	10	16 ～ 17	被災者は、翌日、翌々日に控えた中学校の記念式典及び文化祭の為の各種準備、清掃作業に従事していた。1階正面玄関西側のガラス窓清掃のために、高さ1mの手すりを乗り越えて地下ドライエリア（深さ5.75m）の上方に張られた飛来落下防止用のネット上に降り立ったところ、ネットを固定していたピンの一つが外れて地下ドライエリアまで墜落して死亡した。	414	1	30～ 49
2008	7	11 ～ 12	被災者は他の教諭4人とともに、学校行事の「夏期学校」で、中学2年生2クラスの生徒約80人を引率して、海水浴場に来ていた。生徒の遊泳前、海の様子を調べるために沖に向かって泳いでいたが、ブイ付近（沖合約20m）でうつ伏せ状態で浮かんでいるところを、他の教諭が発見して浜辺に引き上げ、病院に搬送したが死亡した。	713	10	100 ～ 299
2008	11	13 ～ 14	被災者は、はしごを用いて神社の屋根（軒高約3m）に上り、破損した屋根瓦の取替作業を行おうとしたところ、足を滑らせ地上（石畳）に墜落して死亡した。	415	1	10～ 29
2008	1	7 ～ 8	小学校のボイラー室において、殺害された被災者（臨時職員）が発見された。なお、被災者は同校に所属する職員により刃物で刺殺された。	999	99	50～ 99
2007	3	13 ～ 14	鉄道駅ホームを西側から東側へ通行の際、線路に転落し、入車してきた電車にはねられた。	232	18	300 ～ 499
2007	10	15 ～	立木（イチョウ）の幹に脚立を掛けて上り、枝切りの下見を行っていた被災者が校舎の基礎コンクリート上に墜落した。	371	1	50～ 99

		16				
2007	3	9 ～ 10	被災者は、出張先から所属事業場へ向け国道上をRV車で走行していたところ、凍結した路面でスリップして対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた貨物自動車と衝突した。	231	17	10～ 29
2006	12	11 ～ 12	被災者は園児送迎バス運転手で、送迎時以外は園内保守修繕等の作業全般を行う者であった。朝の運転後、園庭樹木の剪定を行い、剪定3本目の樹木（樹高573cm・胸高直径63cmのプラタナス）に梯子（閉じた脚立）をたてかけて剪定中、折れた枝（枝の付け根の高さ255cm）と共に墜落した。	712	1	10～ 29
2006	11	13 ～ 14	立木（紅葉）の剪定作業において、高さ3.5mの位置にある垂れ枝を伐採するため、三脚脚立に上り、チェーンソーで切れ目を入れた枝を自分の手で折ろうとして、バランスを崩し三脚脚立から墜落して、地面（アスファルト面）で強打した。	371	1	300 ～ 499
2006	6	11 ～ 12	ボイラ大径管溶接部のクリープ寿命の研究のため、委託業者が行う試験に立ち会うため現場に入場し、業者と打合せ後に高さ9mの足場上で配管の溶接部を確認する作業中、約9m下のボイラ建屋4階のステージ上に墜落した。	411	1	100 ～ 299
2006	4	15 ～ 16	被災者は、県道で同僚3名と測量を行っており、休憩のため道路脇に座っていたところ、加害者が運転するワゴン車がカーブを曲がりきれずに道路の外に飛び出し、被災者に衝突した。	231	17	10～ 29
2005	5	8 ～ 9	グライダー機で離陸後、高度80mまで上昇していたところ、突然失速し、機首部分から地上に墜落した。	239	1	1～9
2005	1	11 ～ 12	乗用車を運転中、交差点において、大型トラックと衝突した。	221	17	100 ～ 299
		6				50～

2005	12	7	補習授業の合宿中に、宿泊部屋のベッド脇に倒れていた。	999	99	99
2005	8	9 ～ 10	自転車で交差点の横断歩道を渡っている時に右折してきた大型トラックにはねられた。	221	17	10～ 29
2005	12	17 ～ 18	業務が終了し帰宅するため、車を敷地境界付近に停車させ出口のバリケードを立てていた際、急に車が動き出したため、被災者は慌てて車に乗り込もうとしたが止められず壁に激突した。	231	7	1～9
2005	3	11 ～ 12	クマの飼育舎の清掃をしようとしたところ、ツキノワグマに襲われた。	719	90	50～ 99
2005	7	10 ～ 11	岸より沖に出て、水深10m付近でプランクトンのサンプリングを行っていた際に、ゴーグルに水が入り、浮上しようとして溺れた。	713	10	1000 ～ 9999
2005	3	18 ～ 19	牧場の試験用鶏舎内の清掃作業において、被災者1人でガソリンエンジン式高圧水洗浄機を使用し鶏舎内を洗浄中、排気ガスが室内に充満し、その排気ガスを大量に吸い込んで一酸化炭素中毒により倒れているところを見された。	514	12	10～ 29
2004	8	16 ～ 17	河口において、砂浜から投げた石が波によってどのように運ばれるかの研究を行っていたところ、高波にさらわれた。	713	10	100 ～ 299
2004	4	8 ～ 9	ビル駐車場で自家用車を駐車する際に、ブレーキとアクセルを踏み間違えたため車が暴走し、フェンスを突き破り7m下の道路に転落した。	231	1	100 ～ 299
2004	7	8 ～ 9	博物館において、文書収蔵室内の害虫駆除作業を行うため同室内でくん煙剤を炊いたところ、突然爆発し、文書収蔵室と学芸員室との間仕切りが爆風で吹き飛び、被災者が同壁と学芸員室の壁に挟まれ死亡した。	513	14	1～9

2004	3	21 ～ 22	普通乗用車で国道を走行していたところ、突然うめきだし、意識を失った。	911	90	50～ 99
2004	9	10 ～ 11	車両系建設機械を運転する業務に係る職業訓練の実習中、訓練生が運転しやすくするためにブル・ドーザーを使って盛土をならす作業を行っていたところ、盛土個所にあった高さ約1.5mの段差を後進で乗り越えた衝撃でブル・ドーザーを運転していた被災者が運転席から後ろに投げ出され、後進を続けていたブル・ドーザーのクローラにひかれた。	141	7	30～ 49
2003	12	11 ～ 12	事業場内の放射線管理区域を隔てている門のキーボックスの開錠のため原付自転車で走行中、門の南側の土手を越えてフェンスに激突した。	231	3	10～ 29
2003	12	11 ～ 12	農道の舗装工事に伴う遺跡の有無の確認試掘において、掘削個所（幅2m、長さ9.6m、深さ2.2m）の壁面を手ベラで仕上げ掘削していたときに、壁面が幅約2.2mにわたり崩壊し胸部が崩壊した土砂と壁面の間にはさまれた。	711	5	100 ～ 299
2003	9	16 ～ 17	スイミングクラブ駐車場内において、駐車ラインの塗装作業を行っていたときに、スイミングクラブ利用者の軽自動車にはねられ、後輪に引っかかって約5m引きずられた。	231	7	50～ 99
2003	9	10 ～ 11	飛行訓練のため、空港を離陸した小型飛行機が別の空港に着陸体勢に入ったときに、滑走路手前の南斜面に墜落し搭乗者3名が死亡した。	239	18	300 ～ 499
2003	9	10 ～ 11	飛行訓練のため、空港を離陸した小型飛行機が別の空港に着陸体勢に入ったときに、滑走路手前の南斜面に墜落し搭乗者3名が死亡した。	239	18	300 ～ 499
2003	9	9 ～ 10	廃タイヤを加熱熔融して改質油を取り出す実験プラントで、廃タイヤ300本が入った熔融炉の下部着火口から着火したが熔融炉の上部廃タイヤ投入口の蓋の閉まりが悪かったので、2名で炉上部のデッキで蓋のパッキンを修理し再び蓋をしたときに爆発し、爆風で飛ばされた1名が死亡した。	321	14	1～9

2003	8	16 ～ 17	自動車エンジンの開発比較テストのためアメリカ合衆国へ出張し、高地実走テスト後さらに確認のため国道を走行中、対向車線をはみ出して対向車と正面衝突し2名が死亡した。	231	17	～ 9999
2003	8	16 ～ 17	自動車エンジンの開発比較テストのためアメリカ合衆国へ出張し、高地実走テスト後さらに確認のため国道を走行中、対向車線をはみ出して対向車と正面衝突し2名が死亡した。	231	17	～ 9999
2003	7	16 ～ 17	航空機訓練が終了して空港に帰投中に、エンジンの不具合が発生して墜落した。	239	1	50～ 99
2003	7	0 ～ 1	小学生6年生の修学旅行で、生徒を引率して海水浴中に生徒数十名が潮の影響で遊泳禁止区域に流されたため、生徒を近くの岩場に避難させようとした教諭が溺れた。	713	10	10～ 29
2003	4	11 ～ 12	フェニックスの木にはしごをかけて、高さ約6mの個所で枝の枝切り作業を行っていて墜落した。	371	1	30～ 49
2003	4	15 ～ 16	小型ドラグ・ショベルをパイプハウス内に収納するため移動中に、パイプハウス入口の梁に頭部を打ち付け、そのまま頭部を梁に押さえ付けられたままとなって頸椎を損傷した。	142	3	10～ 29
2003	2	11 ～ 12	学校4階の多目的ホールで、窓の網戸を張り替えてサッシ枠に取り付ける作業中、誤って窓から13.2m下の地上に墜落した。	418	1	1～9
2002	8	20 ～ 21	当日の売上金をコンビニエンスストアにバイク（50cc）で入金に行く途中、交差点において走行中のバイクに跳ねられた。	231	17	10～ 29
2002	10	16 ～ 17	宿泊する予定のホテルに向けて乗用車で国道を走行中、左カーブを曲がりきれずに車がスピンして対向車線にはみだし、前方より来た乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29

2002	3	14 ～ 15	航空機の教官が訓練生と二人乗り単発プロペラ機で離陸し、きりもみ状の飛行を体験する「スピン訓練」を実施していて、防風林内に水平状態で墜落した。	239	18	10～ 29
2002	1	8 ～ 9	牛舎内で牛に激突された。	719	6	100 ～ 299
2001	12	15 ～ 16	学校内のミーティング室兼倉庫前の通路に設けられていた仮設の雨除け屋根を解体する作業において、屋根上でバールを用いて母屋を取り外していたときに3.6m下の地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2001	6	13 ～ 14	農業試験場内の畑において、集めた小石をトラクター後部の荷台に積みバックで畑から農道に出ようとしたときに、ハンドル操作を誤って農道より1.6m下の水田に転落し下敷きになった。	229	1	10～ 29
2001	4	11 ～ 12	四輪車の研究開発のため国外に出張し、上司の運転する車の助手席に乗車して現地駐在員の運転する自社の車との比較走行実験のためアウトバーンを走行中、小雨によりスピンしてガードレールに激突した。	231	17	1000 ～ 9999
2001	3	8 ～ 9	出勤後、プール周辺の清掃と駐車場シャッター及びバリカーの開放作業を行い、その後、1階北側のドライエリア、グレイチング部のゴミを取り除こうとグレイチングの上に乗ったときに、グレイチングが外れ5m下の地下1階に転落した。	419	1	1～9
2000	12	10 ～ 11	大学構内の草刈り作業を区域を分担して行っていて、作業を終えても同僚の姿がないので、搜索したところ、池の底で死亡しているのを発見した。	711	10	300 ～ 499
2000	9	9 ～ 10	短期大学構内において、就業場所に向かって車道の左側を歩行中、右後方から走行してきた学食運搬車に激突されて転倒し、車両に巻き込まれた。	221	6	100 ～ 299
2000	11	8 ～	ヘリコプター格納庫で燃料を補給して航空イベントに参加するため離陸し、水平距離で約500mほど飛行したところで突然失速し近くのえん堤に	239	18	10～ 29

		9	墜落し、パイロットと同乗の営業職員が死亡した。			
2000	7	7 ～ 8	深夜勤務明けに上司から空港にいる社員にビデオをオートバイにて届けるよう指示を受けて走行中転倒した。	231	17	1～9
2000	11	8 ～ 9	ヘリコプター格納庫で燃料を補給して航空イベントに参加するため離陸し、水平距離で約500mほど飛行したところで突然失速し近くのえん堤に墜落し、パイロットと同乗の営業職員が死亡した。	239	18	10～ 29
1999	12	17 ～ 18	研究室において、窓枠に上って窓を拭いていたときに、誤って墜落し、2階ベランダに激突した。	418	1	100 ～ 299
1999	12	11 ～ 12	書類送達のため2階事務室から1階へ行くため階段を降りていたところ、バランスをくずして踊場に墜落した。	413	1	1～9
1999	9	4 ～ 5	学校行事のキャンプ場から料理長を送るため事業場の車で朝早く出発して走行中、カーブを曲がりきれずに路外に転落した。	231	17	10～ 29
1999	8	0 ～ 1	乗用車に同乗して事業場を出発し県道を走行中、乗用車が雨のためスリップして対向車線にはみ出し対向車と衝突した。	231	17	100 ～ 299
1999	7	11 ～ 12	教育の一環として牛等の動物の飼育も導入している全寮制の高校で牧場内で推定体重600 kilogramsの5歳の雄牛を散歩させていたところ、牛が突然暴れて、激突されてコンクリート柵に押しつけられた。	911	6	10～ 29
1999	7	13 ～ 14	打合せのためリース車(普通乗用車)で出張し、その帰り道に大型トラックと正面衝突した。	231	17	30～ 49
1999	4	10 ～	生態研究調査で、事前に仕掛けていた網がある対岸での作業を終え、堰に沿って歩いていたときに川の中央付近で堰の下に流された。	713	10	300 ～

		11				
1999	3	6 ～ 7	大学キャンパス構内の水路に守衛がバイクと共に転落して溺死しているのを交代のため出勤してきた同僚が発見した。	231	10	10～ 29
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着するとの連絡後消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	239	18	30～ 49
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着するとの連絡後消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	239	18	1000 ～ 9999
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着するとの連絡後消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	239	18	1000 ～ 9999

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。